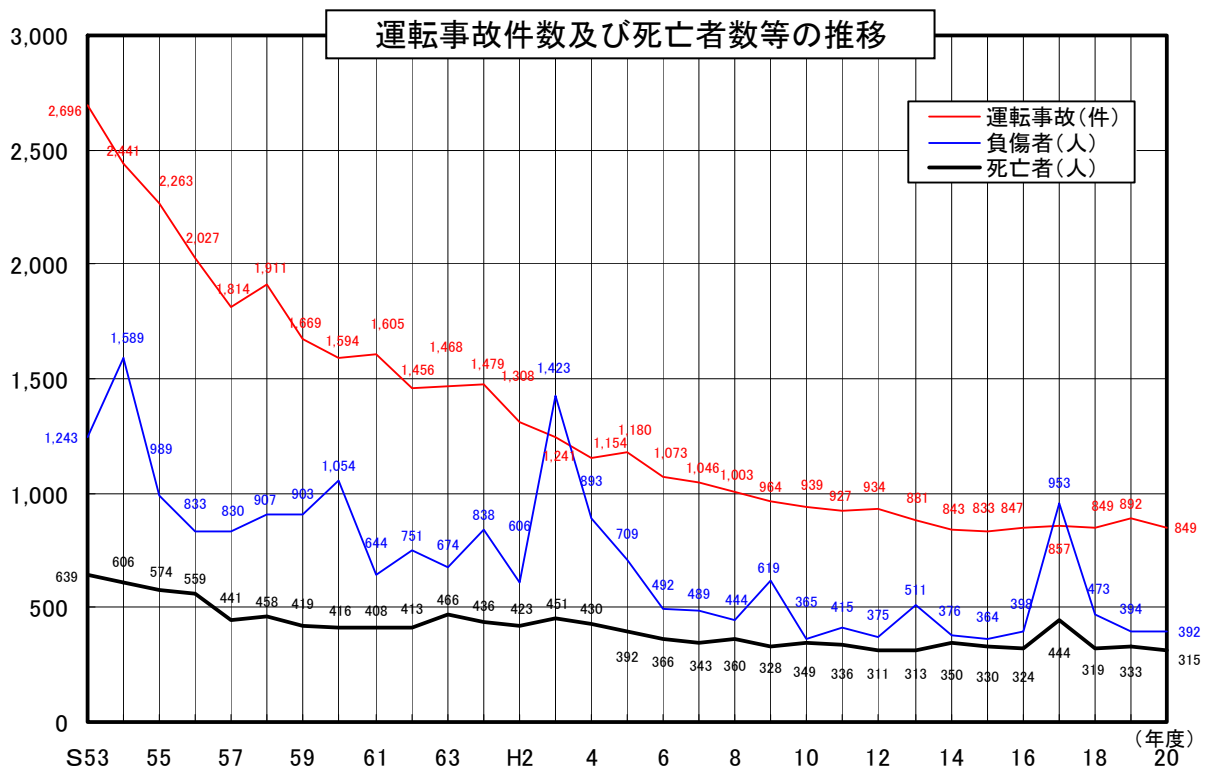


鉄軌道輸送の安全にかかわる情報 (平成 20 年度)

[概要版]

○運転事故件数等の推移

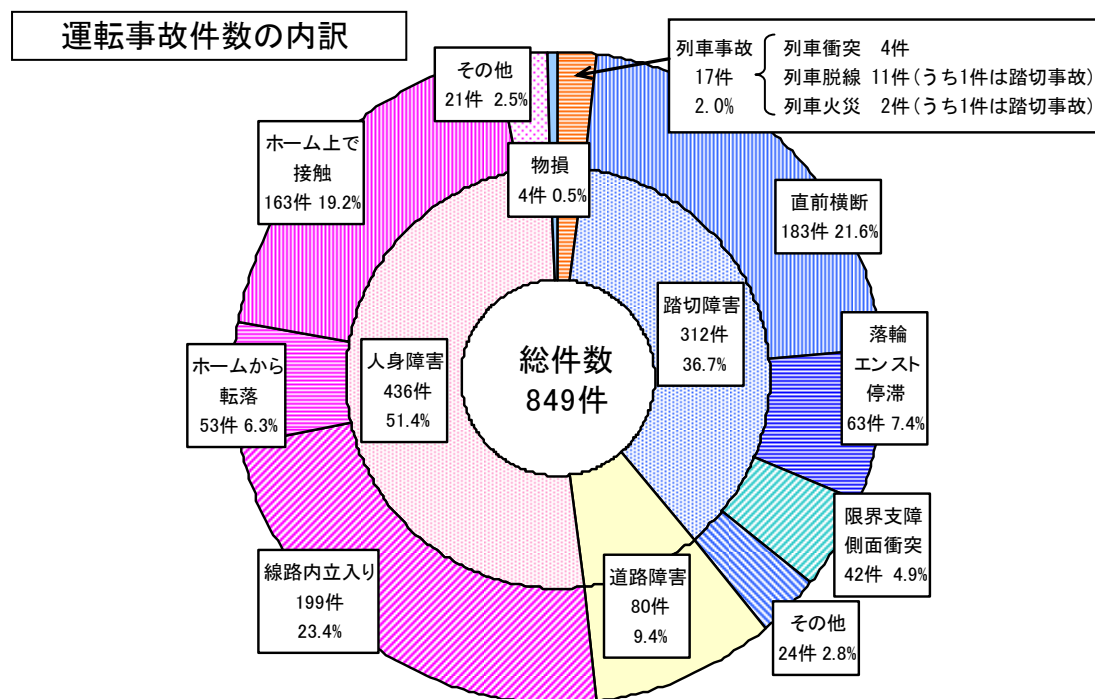
平成 20 年度の運転事故による死亡者数は 315 人で対前年度 18 人(5.4%)減、運転事故件数は 849 件で対前年度 43 件(4.8%)減でした。また、乗客の死亡事故は 0 件でした。



○運転事故件数の内訳

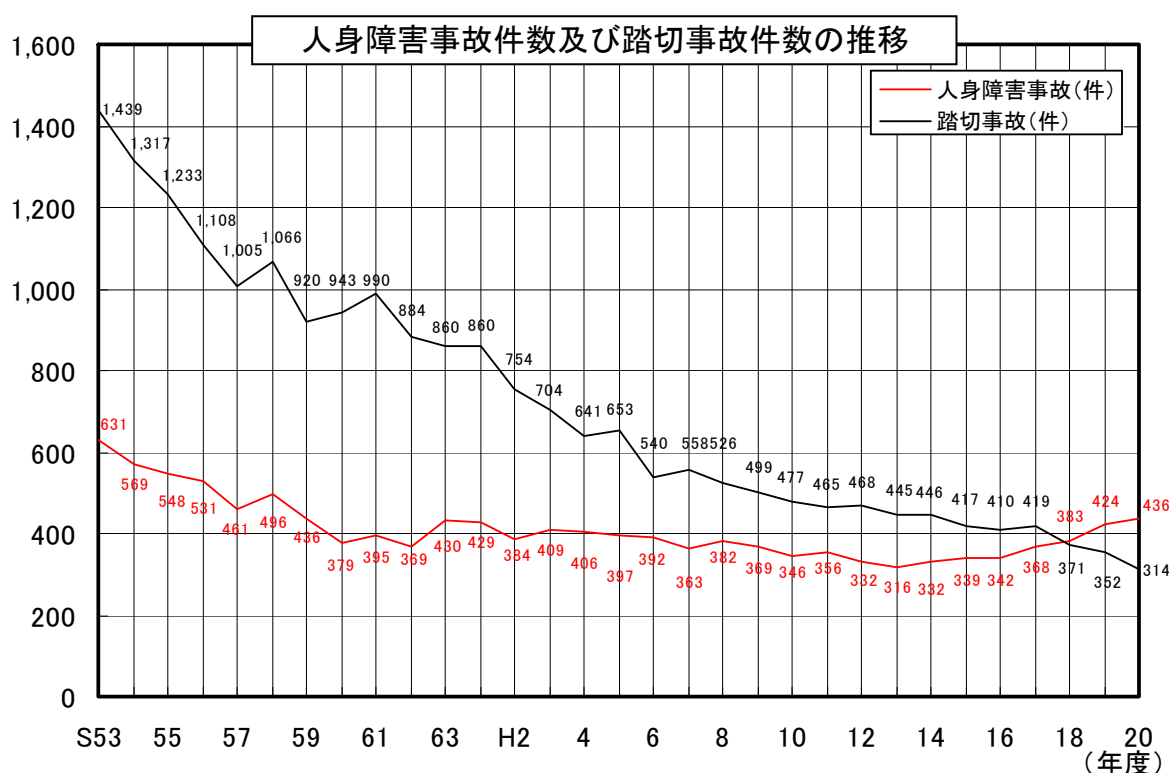
運転事故件数については、その約9割を「線路内立入り」や「ホーム上で（列車等との）接触」などを原因とする人身障害事故と、「直前横断」などを原因とする踏切障害事故が占めています。

このため、運転事故の防止には、鉄軌道事業者の安全対策に加えて、利用者や踏切通行者等の協力が重要となっています。



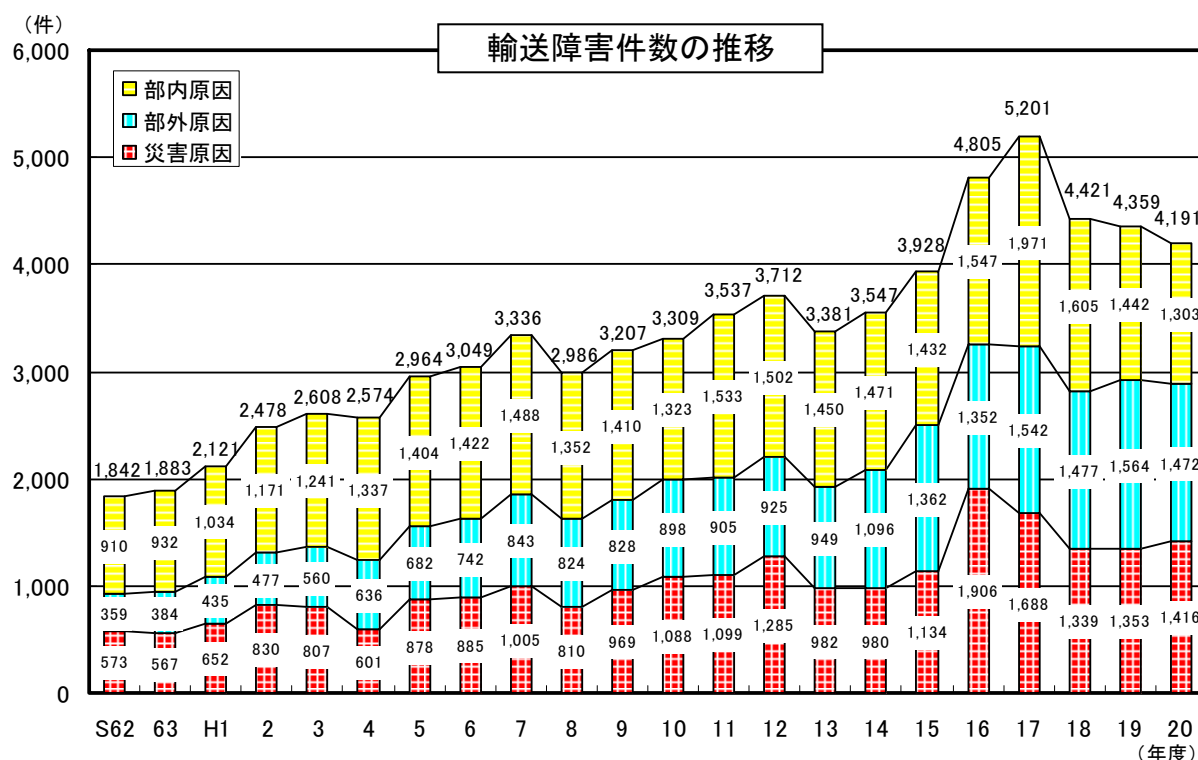
○人身障害事故件数及び踏切事故件数の推移

平成20年度の人身障害事故は436件で対前年度12件（2.8%）増、踏切事故は314件で対前年度38件（10.8%）減でした。



○輸送障害件数の推移

平成 20 年度に発生した輸送障害（列車の運休、旅客列車の 30 分以上の遅延等）は 4,191 件で、対前年度 168 件（3.9%）減でした。



○J R西日本福知山線列車脱線事故後の安全対策の実施状況

J R西日本福知山線列車脱線事故を契機として義務付けした曲線部への速度制限機能付き A T S 等の整備率が平成 20 年度末現在で 86%に達するなど、安全対策の進捗が図られました。

		整備率	
		平成 20 年 3 月末	平成 21 年 3 月末
速度制限機能付き A T S 等	曲線部	8 4 %	8 6 %
	分岐部	3 7 %	4 5 %
	終端部	8 3 %	8 7 %
運転士異常時列車停止装置		6 4 %	7 1 %
運転状況記録装置		4 3 %	5 3 %
発報信号設備の自動給電設備		5 7 %	7 0 %

※ 特に危険性の高い急曲線における速度制限機能付き A T S 等の緊急整備については、平成 19 年 3 月末までに対象の 264 箇所全て完了しています。